



全標協広報

2019  
NO. 339

○第56回総会を開催	1
○新顧問に矢代隆義氏	4
○全標協表彰の被表彰者	4
○平成30年度事業報告	5
○各支部の総会開催状況	6
○役員等就任挨拶	7
○遠藤特別顧問が褒章受章	10
○新役員・顧問名簿	11
○標識ハンドブック改訂版を発行	12
○お知らせ	12

ご意見をお寄せ下さい！ Eメール: [soumu@zenhyokyo.or.jp](mailto:soumu@zenhyokyo.or.jp)

「トラフィックサポーター」は、ホームページではカラー版でご覧いただけます

発行所 〒102-0083 東京都千代田区麹町3-5-19 にしかわビル3F (一社)全国道路標識・標示業協会 TEL 03-3262-0836 ホームページ: <http://www.zenhyokyo.or.jp/>

## 第56回総会が開催されました



5月22日(水)午後3時10分から東京都千代田区のホテルグランドアーク半蔵門において全標協第56回通常総会が開催されました。

総会は、清水会長の挨拶の後、国土交通省池田豊人道路局長、警察庁交通局交通規制課小倉隆久理事官からご挨拶をいただきました。



次に表彰が行われ、協会業務に多大の貢献をされた佐藤義信、宮下広男、増田孝、内藤真介、井澤達也、江田佳弘、藤堂義博（代理受領）、政俊一の8氏に清水会長から表彰状が贈られました。また、今井隆氏への表彰状、鎌田昌治、大坪美則、岩井繁基の3氏への感謝状、優良技能者への表彰状が支部総会において授与されたことが紹介されました。

続いて議事に移り、決議事項の第1号議案「平成

30年度事業報告(案)、第2号議案「平成30年度決算報告(案)」、第3号議案「理事及び監事選任の件」及び第4号議案「定款の一部変更の件」について説明が行われ、全て異議なく承認されました。理事は1人増員となり、23人になりました。また、報告事項の「令和元年度事業計画」、「令和元年度収支予算」及び「道路標識点検診断士の国土交通省技術者資格登録について」が報告されました。

その後、新たに役員に選出された三林洋介、伊藤勲、東久雄、藤原周太郎の4理事及び小西竹丸監事が紹介されました。また、役員を退任される渡辺圭一郎、高橋秀徳両理事及び佐藤雅廣監事（本多誠司理事は欠席）に清水会長から感謝状が贈られました。

通常総会終了後、臨時理事会が開催され、会長、副会長及び専務理事が互選されました。これまでの



三役は全て再任されました。

通常総会に先立ち、午後1時半から全国県協会長会議が開催されました。会議では国土交通省土地・建設産業局小笠原憲一建設市場整備課長の「建設分野における外国人材の受入れについて」と公益財団法人建設業適正取引推進機構山崎篤男専務理事の「建設業のコンプライアンスについて」の講演が行われました。また、子どもを守ろうプロジェクト第11回全国大会(鹿児島)について、前山達彦愛知県協会長(中部支部支部長)、庵芳孝九州協会鹿児島県支部長からの説明がありました。

全標協政治連盟総会終了後の午後5時半から、意

見交換会が全標協政治連盟との共催で開催され、多数の国会議員、官庁関係者、関係団体会長等が出席されました。



## 会長挨拶

清水 修一



一般社団法人全国道路標識・標示業協会第56回通常総会開催に当たりまして、ご挨拶申し上げます。本日は公務ご多忙の中、ご来賓としまして国土交通省から池田豊人道路局長様、警察庁から交通局交通規制課理事

官小倉隆久様にご臨席を賜り、両省庁には日頃よりご指導をいただき、協会を代表して心より厚く御礼を申し上げます。

さて、我々の経営環境においては、関係予算が長期的かつ大幅な減少傾向にあり、予算獲得につきましても、苦慮しているところでもあります。さらに、現場技術者や従業員の高齢化、若い入職者の減少、働き方改革による制約等、数々の課題を抱えています。

今年の4月から「働き方改革」の関連法案が施行されました。建設業は3K(危険、きつい、汚い)な業界と言われてきましたが、これからは「働き方改革」を真摯に受け止め、新しい3Kの出発ということで、「給与、休日、希望」の充実、労働環境を整えていかなければなりません。また、技術者の確保のためには、どんな困難があっても乗り越えていかなければなりません。

次に予算獲得に対する環境といたしましては、筐子トンネルの崩落事故をきっかけに道路インフラの老朽化、維持更新の必要性など社会の要望が高まっています。国土交通省関係では、新しい市場単価の採用により価格の改定をしていただき、また警察庁関係では、禁止線、はみ禁工事に使用する黄色の標示材で全面的な鉛クロムフリーの採用をしていただ

き、対応しているところです。感謝申し上げます。

我々の協会として昨年を振り返りますと、高速道路のナンバリング標識、案内標識の英字併記、そして止まれ標識STOP併記等、採用していただいています。

また、今年のラグビーワールドカップ、来年のオリンピックに向けて、標識標示の国際化の大きな流れが起きています。一昨年40周年を記念して、協会のロゴマークを新しくし、会員一同、気を新たに取り組んでいるところであります。

次に今年一年を展望してみますと、登録基幹技能者講習や道路標識点検診断士研修を実施しております富士教育訓練センターが全て完成して、技術者育成の拠点として充実した施設となり環境が整いました。また、長年の我々の懸案でありました道路標識設置・診断士が道路標識点検診断士と改称し、認定登録となりました。各支部総会の折、国交省の地方整備局を訪問し、要望書を提出して採用をお願いしてきました。

協会にとって重要な課題であります道路標識標示予算については、国会の先生方との議員懇談会、国土交通省との勉強会、要望活動などで、各支部、協会とともに活動をより活発化させ、予算獲得に努めてまいります。

当協会は昭和51年法人として設立され43年を迎えることができました。育ててくださった政府、国民、関係の方々の理解、ご支援によるものと思います。

最後に前会長の遠藤芳郎様が黄綬褒章を受賞されます。誠におめでとうございます。

本年も協会活動3つの柱、「人づくり、仕事づくり、組織づくり」をしっかりと進めてまいりますので、よろしくお祈りいたします。

## 祝 辞

国土交通省道路局長 池田 豊人 様



一般社団法人全国道路標識・標示業協会第56回通常総会がこのように盛大に開催されますことをお祝い申し上げます。また、お招きいただきましてありがとうございます。

令和元年度となりまして、本年度20年ぶりに公共事業、道路事業の予算が増えました。皆様方の力を借りながら予算を活用しまして安全で暮らしやすい生活空間づくりに取り組んでまいります。この流れを続けていくことが一番大事であり、皆様方のご尽力をいただければと思います。

去る5月8日、滋賀県大津市にて、散歩中の保育園児に車両が衝突し、幼い命が失われるという大変痛ましい事故が発生しました。これを受けて、警察庁と連携して全国の保育園、幼稚園周辺の危険箇所

を一斉に点検を行いまして、ガードレール及び路面標示の追加等、全国で進めてまいります。

もう一つの話は自転車通行帯であります。車道の通行が増えてきています。この4月に道路法改正して車道にペイントして自転車通行帯であることを明示して運用していきますので、ご協力をいただくこととなります。

先ほどの清水会長の挨拶にあった道路標識点検診断士が登録され、発注者側としても活用していくよう取り組んでまいります。また、新しい3K業界になるためにも発注者側も取り組んでいかなければならないと思います。

資材関係の単価の見直しをしていますが、まだまだ不十分なことが多いと思いますので、具体的にご指摘をいただき、若い人が入ってくるようお役に立てるよう取り組んでまいります。

## 祝 辞

警察庁交通局交通規制課理事官 小倉 隆久 様



本日ここに、全国道路標識・標示業協会第56回通常総会が盛大に開催されますことを、心からお祝い申し上げます。

貴協会におかれましては、平素から道路標識・道路標示の設置を通じまして、安全かつ円滑な道路交通の確保に御尽力いただいておりますことに対し、この場をお借りして、厚く御礼申し上げます。

さて、昨年交通事故による死者数は、3,532人で、警察庁が保有する昭和23年以降の統計で最少となった一昨年を、更に下回りました。

これもひとえに、平素から交通安全活動に携わる皆様の多大なる御尽力のたまものであり、心から感謝を申し上げます。

しかしながら、今なお多くの尊い命が交通事故で失われていることに変わりはなく、母子二人が亡くなった池袋での交通事故や保育園児二人が亡くなった大津での交通事故など、悲惨な交通事故が後を絶ちません。

警察といたしましては、高齢運転者の交通事故防止対策を始め、第10次交通安全基本計画に基づき、政府が目標とする「世界一安全な道路交通の実現」に向

け、子供や高齢者の安全確保を図るための諸対策、悪質・危険な違反の取締り、計画的な交通安全施設の整備、先端技術の普及・活用等、地域の交通実態に即した総合的な交通事故防止対策を一層強力に推進し、交通死亡事故等の更なる減少を目指してまいります。

このうち、交通安全施設については、道路標識・標示等の整備の充実や老朽化対策を図り、更なる交通事故の防止につなげてまいりたいと考えておりますが、交通死亡事故の抑止は、ひとり警察のみで成し得るものではなく、関係機関・団体との緊密な連携による官民一体となった取組が不可欠であることは申すまでもありません。

貴協会におかれましては、より良い道路交通環境の実現に向け、道路標識・標示に関する研究開発、技術者の育成等をはじめ、先日まで実施されていた春の全国交通安全運動の機会における広報啓発や「子どもを守ろうプロジェクト」などの交通安全活動に取り組んでいただいておりますが、引き続き御尽力いただきますようお願い申し上げます。

終わりに、本日御参会の皆様のご健勝と貴協会の益々の御発展を祈念いたしまして、私のあいさつとさせていただきます。

## 新顧問に矢代隆義氏



この度、全標協の阿南一成顧問が退任され、新顧問に矢代隆義氏が就任されました。

矢代顧問は、警察庁で交通警察の主要ポストを歴任された元警視総監で、今後、全標協に対し貴重なご意見をいただけることとなりました。

矢代顧問は、東京大学法学部を卒業後、昭和48年に警察庁に入り、交通局都市交通対策課長、山口県警本部長、交通局交通企画課長、埼玉県警本部長、長官官房審議官（交通局担当）、交通局長、警視総監等を歴任され、退官後、日本道路交通情報センター理事長、日本自動車連盟会長を務められました。

## 令和元年度全標協表彰の被表彰者

～被表彰者の皆さんおめでとうございます～

### ○表彰状

支 部	氏 名	所 属
東 北	佐藤 義信	(株)キクテック (仙台) 代表取締役
関 東	宮下 広男	矢木コーポレーション(株)代表取締役専務
同	増田 孝	増田産業(株)代表取締役
北 陸	内藤 真介	交通企画(株)代表取締役社長
中 部	井澤 達也	東海道路(株)常務取締役
関 西	江田 佳弘	富国合成塗料(株)取締役社長
中 国	今井 隆	アサヒ道路施設(株)代表取締役
四 国	藤堂 義博	(株)愛媛ミラー代表取締役
九 州	政 俊一	今別府産業(株)取締役福岡支店長

### ○感謝状

支 部	氏 名	所 属
北海道	鎌田 昌治	北海道協会前事務局長
中 国	大坪 美則	中国支部前事務局長
四 国	岩井 繁基	四国協会前事務局長

### ○優良技能者表彰

支 部	氏 名 (所 属)	
北海道	谷内 秀徳 (柴田興産(株))	大内 一程 (ナラサキライン(株))
東 北	米田 秀雄 (株)風志興業)	佐藤 清 (福島ルート産業(株))
関 東	海老澤 豊 (日本ライナー(株))	作間 智之 (日本リーテック(株))
同	水野 圭 (信号器材(株))	
北 陸	寺尾 義明 (サンコー企画(株))	高橋 博之 ((株)クオンテック)
中 部	吉田 康司 ((株)キクテック)	杉山 裕明 (山交ライン(株))
同	橋本 和則 ((株)キクテック)	
関 西	甲嶋 久知 ((株)谷安総業)	佐藤 勉 (白陽化学工業(株))
中 国	山田 康之 (宮川興業(株))	是近 正 (岡山道路興業(株))
四 国	松村 忠志 (中川産業(株))	鳥井 誠徹 (株)四国ライト)
九 州	安藤 亮介 (株)寿陽建設)	水島 一夫 (株)安全総業)

# 平成30年度事業報告

平成30年度事業報告は、5月22日（水）の通常総会において承認されました。その内容は下記のとおりです。

## 第1 各事業の推進状況

### 1 技能者育成事業

#### (1) 登録基幹技能者講習

平成30年7月16日（月）から18日（水）までの間及び同11月5日（月）から7日（水）までの間、富士教育訓練センター（静岡県富士宮市）において、建設業法施行規則に基づく登録基幹技能者の資格を取得するための登録標識・路面標示基幹技能者講習を実施した。講習は、本年度から標識コース及び路面標示コース同時開催となった。同講習には延べ197人（標識66人、路面標示131人）が受講し、再受験で合格した者を含め165人が登録基幹技能者の資格を取得した。

また、登録基幹技能者資格の有効期間（5年）が満了する者を対象とする「更新講習」を2回開催した。第1回は、東京都において平成30年6月5日（火）に標識コース、6日（水）に路面標示コース、大阪市において同6月12日（火）に標識コース、13日（水）に路面標示コースの更新講習をそれぞれ実施した。第2回は、東京都において平成30年12月6日（木）に標識コース、7日（金）に路面標示コース、大阪市において同12月11日（火）に標識コース、12日（水）に路面標示コースの更新講習をそれぞれ実施した。更新講習は延べ287人（標識134人、路面標示153人）が受講した。

#### (2) 道路標識点検診断士研修

平成30年9月3日（月）から7日（金）までの間、富士教育訓練センターにおいて初の道路標識点検診断士研修を実施した。同研修は、平成27年から行われていた道路標識設置・診断士研修を充実させたもので、受講者の範囲を拡大した。同研修は48人が受講し、31人が道路標識点検診断士の資格を取得した。

また、従来の道路標識設置・診断士の資格を有する人が道路標識点検診断士の資格を得るための「特例研修」を開催した。同研修は、平成31年1月21日（月）、22日（火）に東京都において、1月30日（水）、31日（木）に大阪市においてそれぞれ開催した。同研修は合計165人が受講した。

#### (3) 路面標示施工技能検定

職業能力開発促進法に基づき厚生労働大臣から与えられる路面標示施工技能士の資格を取得するため

の技能検定について、全標協の役員等が中央職業能力開発協会中央技能検定委員として参画するとともに、都道府県職業能力開発協会が行う実技試験に支部等が運営等の協力を行った。

#### (4) 道路標識点検診断士の国土交通省技術者資格登録

道路標識点検診断士については、国土交通省技術者資格として登録されることを目指して鋭意取り組んできたが、平成31年1月31日付けで登録された。登録されたことにより、国や地方公共団体の業務に活用が図られるほか、総合評価落札方式の業務において加点評価がなされるなどの優遇措置が行われることとなった。

## 2 広報活動

機関紙「トラフィックサポーター」を6回（奇数月）に発行し、会員企業のほか、関係官庁、関係団体等に配布した。

全標協ホームページについては、内容の速やかな更新に努め、その充実を図った。

## 3 道路標識データベース化

道路標識の新規・更新情報を会員企業から収集し、約2,400件のデータベース化を推進した。収集したデータは、本部に蓄積すると同時に、一部は一般財団法人日本デジタル道路地図協会を通じてカーナビゲーションシステムに提供した。

## 4 セミナーの開催

平成31年2月14日（木）、港区において「モビリティを活用したまちづくりセミナー～自転車を活用したまちづくり（東京五輪開催を見据えて）」を他団体等とともに開催した。セミナーにおいて、会長の主催者挨拶、松村副会長の講演（「安全で快適な自転車ライフの創出に向けた全標協の取り組み」）等が行われた。

## 5 地方講習会等への支援

支部や県協会により多数の講習会、研修会等が開催され、全標協は要請に応じ講師を派遣するとともに、助成金申請があった19件の行事に対し所定の助成を行った。

## 6 関係行政機関等への協力

全国交通安全運動、道路ふれあい月間等に協賛した。

平成30年5月28日（月）、国土交通省の要請に応じ、ウズベキスタン共和国国家道路委員会副委員

長、国土交通省総合政策局国際政策課国際交渉官らの訪問に対応した。全標協は会長、路面標示委員会委員長はじめ関係者が出席し、動画等を使用して我が国の路面標示施工について説明した。

#### 7 関係行政機関等への要望活動

平成30年5月9日(水)及び10月3日(水)に国土交通省との勉強会を開催し、道路局長などの幹部に要望を行った。

平成30年12月5日(水)、会長、副会長及び専務理事が国土交通省の事務次官、道路局長等の幹部及び警察庁の交通局長を訪れ、要望書を提出して標識標示予算の充実等を要望した。また、平成31年3月26日(火)に国土交通省及び警察庁を訪れ、国土交通省技術者資格として登録された道路標識点検診断士の活用を要望した。

平成30年4月19日(木)及び11月7日(水)に自由民主党本部等で開催された議員懇談会に出席し、国会議員及び国土交通省、警察庁の幹部に予算等の要望を行った。

#### 8 子どもを守ろうプロジェクト

平成30年10月25日(木)、常磐ホテル(甲府市)において子どもを守ろうプロジェクト第10回全国大会を開催した。大会には23都道府県、4支部から152人の出席があり、山梨、埼玉、長野、愛知の4県協

会から発表があった。来賓として山梨県県土整備部長、山梨県警察本部長、甲府市長らが臨席した。

県協会が行った子どもを守ろうプロジェクト事業について16件の助成金申請があり、所定の助成を行った。

#### 9 賞揚

功労者や優秀技術者への表彰等が的確に行われるよう積極的な上申に努めた。その結果、平成30年7月10日(火)に宮川裕正中国支部長と東久雄四国協会長が国土交通大臣表彰を受けたほか、同10月5日(金)に5人が優秀施工者国土交通大臣顕彰(建設マスター)を、3人が青年優秀施工者土地・建設産業局長顕彰(建設ジュニアマスター)を授与された。

また、通常総会において、会長が協会業務に貢献した9人を表彰した。

#### 10 図書等の発行

平成30年9月、「路面標示施工技能検定学科試験の手引」を発行した。

平成30年10月、「路面標示ハンドブック」(第5版)を発行した。

「第2 会議等の開催状況」及び「第3 会員の状況」は省略しました。

## 各支部(協会)の総会開催状況

各支部(協会)の令和元年度総会が5月に各地で開催されました。

(一社)北海道協会の総会は5月15日(水)にセンチュリーロイヤルホテル(札幌市)で開催され、全標協から新美副会長が出席しました。本多誠司会長が退任し、新会長に伊藤勲氏が選任されました。

東北支部(小山内章誠支部長)の総会は5月10日(金)にパレスへいあん(仙台市)で開催され、伊藤専務理事が出席しました。

関東支部(神戸康弘支部長)の総会は5月16日(木)に明治記念館(東京都港区)で開催され、清水会長、光吉、新美両副会長が出席しました。石井祐司元中部航空方面隊幕僚長の「国際環境雑感」と題する講演が行われました。

中部支部(前山達彦支部長)の総会は5月20日(月)にローズコートホテル(名古屋市)で開催され、光吉副会長が出席しました。

関西支部(平野好昭支部長)の総会は5月10日(金)にホテルプリムローズ大阪(大阪市)で開催され、清水会長が出席しました。

中国支部(宮川裕正支部長)の総会は5月15日(水)にホテルメルパルク広島(広島市)で開催され、松村副会長が出席しました。松村副会長の「令和時代の災害への備え」と題する講演が行われました。

(一社)四国協会の総会は5月17日(金)にJRホテルクレメント高松(高松市)において開催され、清水会長が出席しました。東久雄会長が退任し、新会長に吉田隆敏氏が選任されました。四国地方整備局荒瀬美和企画部長の「道路行政の最近の話題について」と題する講演が行われました。

(一社)九州協会(今別府英樹会長)の総会は5月17日(金)に博多サンヒルズホテル(福岡市)において開催され、光吉副会長、新美副会長が出席しました。

(一社)沖縄協会(安里浩会長)の総会は5月24日(金)に琉球サンロイヤルホテル(那覇市)において開催され、松村副会長が出席しました。かりゆしウェア着用で行われました。



## 理事就任のご挨拶

三林 洋介

このたびの通常総会におきまして本部理事の大役を仰せつかりました三林洋介でございます。微力ながら協会のお役に立

てるよう尽力させていただきますのでどうぞよろしくお願ひ申し上げます。さて、私が協会と関わらせていただいたのは2002年9月に発足した道路標識設置管理士の講師の一人として準備に着手させていただいた時になります。当時はまだ前任校の神奈川大学での助手であり、学生教育に邁進するとともに交通環境におけるドライバーや医療現場における医療従事者の安全等を、人間工学、経営工学的観点から研究しておりました。そんな時に私の師匠であり学位取得の指導教授であられる大久保堯夫先生から協会の専門資格立ち上げのお手伝いを依頼されたこと、また、当時の協会専務理事であった山下安雄氏にも出会い、道路標識標示業界が果たすべき使命を熱く教示いただいたことが当協会との深いつな

がりとなり、また、昨日のように思い出される次第であります。私の研究テーマの一つで、今も継続して進めている自動車ドライバーと標識標示、路面標示に関する研究はまさに協会が与えてくださった生涯テーマであります。私の専門としている人間工学は、生理学、心理学、生産工学などの諸分野を複合的に統合させて人間の身体能力に合わせて機械設備を安全かつ効率的に設計、製作、デザインする学問分野です。今日の技術の進歩はめざましく、自動運転技術をはじめとして交通環境も大きく発展を遂げていますが、交通環境には人間が介在するルールが存在し、その中でも伝える側と受ける側のインターフェイスが重要である標識標示、路面標示には意義と使命が大きいものであると思っております。安全、安心な交通環境づくりに貢献できるようより一層、精力的に取り組んでまいりますので、皆様方のご支援、ご協力を賜りますようよろしくお願ひ申し上げます。



## 理事就任のご挨拶

大和谷工業株式会社 代表取締役 伊藤 勲

このたび、全標協理事を拝命いたしました北海道協会の伊藤です。

全国各支部の知識と経験豊富な皆様とともに、協会運営に参画させていただけることは、誠に光栄であり、身の引き締まる思いであります。

「温故知新」のことわざのとおり、歴史と伝統を大切にしながら、時代の変化に柔軟に対応できる協会へと発展、成長させていくことが理事の責任と役割であると考えております。

北海道協会の会長として、また全標協の理事の末席として、令和という新しい時代に相応しい協会を築いていくため、誠心誠意努める決意であります。

さて、私の会社は、北海道の北東、オホーツク海に面した北見市に所在しています。北見市は、豊かな自然環境に恵まれた農林水産業を基盤としたオホーツク地域の産業・経済の中心都市であり、「そだねー」や「もぐもぐタイム」でも話題になった、昨年の平昌五輪カーリング女子で銅メダルを獲得し

たLS北見の選手達の出身地でもあります。

地域の自慢として、「玉ねぎ」をご紹介します。

玉ねぎの国内生産量は年間約120万トンで、このうち約6割が北海道産、北見市の玉ねぎ生産量は日本一で、約20万トンを全国に出荷しています。この甘くジューシーな玉ねぎを材料とした「オニオンスープ」は、道内の空港、土産物店で販売されていますので、是非ご賞味ください。

今年の5月26日、北見市の隣町である佐呂間町で、5月としての全国観測史上最高気温39.5℃を記録し、当日の北見市も38.1℃でした。一方、北見市は道内でも寒いマチとしても知られており、今年の2月には最低気温マイナス28.2℃を観測するなど、年間の寒暖差が70℃近い「暑くて寒い」土地柄です。こうした厳しい自然環境との知恵比べに負けずに、常に「人と車の安全安心」を確保するという高い使命感と誇りを持って業務に邁進している次第であります。

最後に、全標協の会員皆様方のご健勝とご隆盛をお祈りし、理事就任の挨拶とさせていただきます。



## 理事就任に当たって

株式会社アトム 代表取締役 東 久雄

このたび四国協会のご推薦をいただき、本部理事に就任いたしました東でございます。本部理事という大役を仰せつかった

ことは、身に余る光栄であり、全身全霊を尽くして頑張りますのでよろしくお願いいたします。

私事ではありますが、昭和53年4月アトム化学塗料株式会社（現アトムクス株式会社）に入社以来、標識標示業一筋に歩んでまいりました。そして平成8年4月株式会社アトムの代表取締役に就任しました。その間、公共工事に携わる者として、全ての道路利用者に満足してもらえぬ工事を目指してまいりました。また、工事成績の向上にも努め、良い技術者を育てる努力を続けてまいりました。その結果、人の成長とともに企業の業績も上がってきたところと自負しております。

現在も、四国協会徳島県支部の支部長として、県民の安全・安心を守ることを第一に、事故防止のための新工法や新材料の開発に取り組んでおります。全標協四国協会の役員歴任中も、「優秀な技術者の育成が不可欠」という信念を持ち、会員各社の資格

取得者を増やすことや、技術力向上を目的にした講習会の開催、基幹技能者講習の積極的な受講促進をしております。

四国支部は平成24年に（一社）全標協四国協会の設立を経て、結成以来43年経過いたしました。そして現在も結成当時の理念である“四国はひとつ”という4県の強い結束力を維持しております。そして平成28年には、国土交通副大臣、四国地方整備局長他多数の来賓をお迎えし、全標協四国協会創立40周年記念式典を行うことができました。

今後も、技術力・工事力を高め、人の命を守るという事業であるという誇りを持って、明るく社会的に意義のある業界になるよう努力をしております。そのためにも、“仕事をつくること” “人をつくること” “組織を強固にして力強い協会にしていくこと”を目標とし日々精進を重ねる決意です。

最後になりますが、徳島県は毎年8月“阿波踊り”で県民が熱くなります。私も、いつまでも熱い心を持って、当協会に貢献していく所存であります。今後も、皆様からのご指導、ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願いいたします。



## 理事就任のご挨拶

ロードライン株式会社 代表取締役 藤原 周太郎

この度、九州協会のご推薦を頂き本部理事を拝命致しました、佐賀県の藤原でございます。前本部理事の高橋大分県支部長に

は、これまで大役を務めて頂き、感謝申し上げます。

九州協会に於いては、一度減少した会員数が今別府会長を始めとして各理事、各県会長のご努力により増加へ転じ、現在65社となっております。業界としての危機感と「登録標識・路面標示基幹技能者」制度及び「政治連盟」活動等、本部の新たな取り組みによるところが大であります。ご存じの様に私共「交通安全施設」の業界は、建設業の専門工事業として「とび・土工・コンクリート」及び「塗装」として分類されています。県レベルの現状は「標識・防護柵等」及び「区画線」を

・他業種と区別して発注する「分離発注」して頂いている。

・「分離発注」されていても「とび・土工・コンクリート」の資格があれば、「標識・防護柵等」の入札に他業種からも参加している。

・殆ど分離発注されていない。（区画線は舗装工事に含まれる。）

に分かれると思います。各県毎に大きな差があります。

一方、私共は自ら元請けになれば利益を確保出来るので、下請負では安い金額で仕事を受けていると思います。「福利厚生費」を取りなさいと言われるが、元請けさんに代わって行う写真管理費等は頂いていないのが実状だと思います。

今後「働き方改革」では従業員さんの実働時間を制限せざるを得なくなり、請負金額を上げないとやっていけないでしょう。又、外国人労働者雇用の問題もあります。

最近の高齢運転者の重大事故を契機として、自動ブレーキやレーンキープ等アシスト機能付きのクルマ

が増加するのは確実と思われ、標示や標識はどのように変わっていくのでしょうか？ 歩行者を守る方策は？ 又、巨大地震による津波対策として避難誘導標識の設置も必要となります。これら多くの課題と悩みを抱えているわけですが、各地方、各県での違いを本部に伝

え、皆様のお力を借りて、微力ながら私なりに力を尽くす所存です。どうぞよろしくお願い申し上げます。

最後に、今年の「こどもを守ろうプロジェクト」全国大会は10月24日鹿児島での開催です。皆様、「どうぞ おじゃたもんせ！」



## 本部監事としての抱負

ミカドコーポレーション株式会社 代表取締役会長 小西 竹丸

平素は、九州協会の運営に対しまして、多大なるご支援・ご協力を賜り心より感謝申し上げます。

この度、令和元年5月22日に開催されました通常総会におきまして、本部監事に選任されました。その職責の大切さを痛感し、身の引き締まる思いであります。

これまで九州協会では、正会員の著しい減少により理事ポストのみとなっておりましたが、会員の大幅な増加により、監事枠が復活したものと考えております。

業界を取り巻く環境は、公共事業予算の大幅な削減等もあり、厳しい状況が続いていますが、自動車業界では、最近の重大死亡事故等の頻発により、自

動運転システムや自動ブレーキ（車両衝突軽減システム）等の開発が急がれているところです。そのため、当協会が今後関わることとなる、道路標識、路面標示及び環境・防護柵等が必要不可欠であり、更に、「道路標識点検診断士」等の資格や講習会の広報啓発についても積極的に取り組みたいものであります。

新元号である「令和」の発表とともに、日本全国が新たな時代の始まりに湧きました。当協会としましても、この節目で思いを新たにして、協会員獲得に尽力する所存であります。

そのためには、本部理事会において建設的意見を述べるなど、(一社) 全国道路標識・標示業協会を益々発展させていきたいとの所信を述べさせていただきます。



## 四国協会会長就任にあたって

瀬戸内ライン工業株式会社 代表取締役 吉田 隆敏

このたび、令和元年度（一社）道路標識標示業四国協会の通常総会において、四国協会会長に選任されました、吉田でございます。

昭和51年に（社）全国道路標識・標示業四国支部が設立されて以来、今日まで数多くの支部長の方々がご苦勞、ご尽力されてまいりました。また、平成24年には当時の渡辺支部長のもと、四国四県が足並みを揃え、一般社団法人化を成し遂げ、関係官庁及び関係団体との更なる良好な関係を築き上げることができました。さらに平成28年4月には、全国道路標識標示業政治連盟設立に伴い、東前会長が幹事長に就任され、その手腕を発揮し、四国協会も強固な団結力のもと、多くの会員を有し、高い組織率をもって、その政治連盟の活動にも多大の貢献をしてまいりました。

現在建設業で働く労働者は約340万人といわれ、そのうち今後10年間で110万人の高齢者が離職すると予

想されており、さらには、四国は全国より25年早く人口減少が始まり、10年早いペースで高齢化が進むであろうといわれています。そんな中、われわれ四国協会の未来の柱となるべき「青年部会」をさらに活性化させ、また新たな人材の確保に努める一方、路面標示施工技能士、登録標識・路面標示基幹技能者及び道路標識点検診断士等、我々協会独自の専門技術の獲得等の支援の充実、教育訓練に全力を注がねばなりません。また、四国管内我々4県の10万人あたりの事故死傷者数は、変わらず全国ワーストランキングの上位を占めており、その対策は喫緊の課題であります。

令和という新しい時代に入り、「和をもって貴しとする」の言葉を胸に、会員の皆様と真摯に向き合い、会員一人ひとりが希望をもってさらに強固な協会に成長していくことを微力ながら努力してまいりたいと思っております。

今後とも、皆様からのご指導、ご助言を賜りますよう何卒宜しくお願い申し上げます。

## 遠藤特別顧問が黄綬褒章受章

全標協特別顧問（前会長）の遠藤芳郎氏が令和初の褒章を受章されました。褒章は5月21日付けで、5月30日(木)に国土交通省において伝達式があり、同日皇居において拝謁がありました。

遠藤特別顧問は、信号器材㈱代表取締役社長を18年間務められ、また、全標協会長を平成19年から27年まで8年間務められました。

### 黄綬褒章受章

特別顧問（信号器材株式会社 代表取締役会長）遠藤芳郎

令和元年『春の褒章』に際し、皆様の力添えにより、はからずも黄綬褒章受章の栄に浴することができ、誠にありがとうございました。衷心より感謝申し上げます。

去る、5月21日付閣議決定の後、30日には国土交通大臣より黄綬褒章の伝達を受け、引き続き皇居豊明殿に参内し、天皇陛下に拝謁の栄誉とともに、温かい励ましのお言葉まで賜り、感激の極みでございました。

振り返りますと、藤井元会長のもと3期6年間副会長として多くを学び、会長として8年道路標識・路面標示のスペシャリスト永澤氏・清水現会長殿そして、女性の活躍する時代を意識し、松村氏の豊富な経験と、各支部長様の意見を反映すべく胸襟を開き、虚心坦懐に議論し、全国組織の『21世紀ビジョン』を策定し、一つひとつ形に。

バブル経済の崩壊、リーマンショック、関連する予算の半減そして、ダンピング受注の弊害（「コンクリートから人へ」）等先行きの明かりが見えない中において、『正直者が報われる時代』の到来を信じ、人材を育成（標識設置管理士+診断士制度／登録標

識・路面標示基幹技能者制度）する専門工事業が評価され又、老朽化する社会資本（道路標識・路面標示）の維持管理（点検⇒診断⇒修繕⇒データベース）の企画提案。更には、法人制度改革と財務の健全化（事業活動活性化と冗費の削減）等400名を割った会員も500有余の会員協会へ。公共福祉に寄与する現れであり、誇りに思うところです。

結びになりますが、この度の受章につきましては、ひとえに一般社団法人全国道路標識・標示業協会の皆様の代表として戴いたものであります。

これからも、ご芳情に報いるべく、なお一層の精進を致す所存でございまして、何卒変わらぬご交誼とご指導を賜りますようお願い申し上げます。



夜間の安全走行を  
サポートする3Mの  
テクノロジー

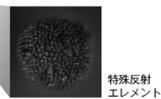
3M Japan Group  
スリーエム ジャパン株式会社

〒141-8684  
東京都品川区北品川6-7-29  
http://www.mmm.co.jp/ref/

### 3M™ 全天候型溶融式路面標示材 3M™ All Weather Thermoplastic (AWT)



AWTは雨天時の反射エレメントと大粒径ガラスビーズを混合した特殊反射素子を散布することにより、雨天時・晴天時ともに優れた視認性を提供します。



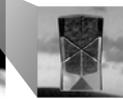
特殊反射エレメント

カスタマーコールセンター  
製品についてのお問い合わせはナビダイヤルで  
**0570-012-123**  
ナビダイヤルは市内通話料金でご利用いただけます。  
受付時間/8:45~17:15 月~金(土・日・祝・年末年始は除く)  
3M、ダイヤモンドグレードは3M社の商標です。

### 3M™ ダイヤモンドグレード™ DG<sup>3</sup> 超高輝度反射シート(広角プリズム型フルキューブ)



3M™ ダイヤモンドグレード™ DG<sup>3</sup> 超高輝度反射シートは、マイクロリプリケーション(高精細表面)技術によってほぼ100%の反射面をもつ夜間でも明るく見やすい、反射シートです。



フルキューブ(DG<sup>3</sup>)



## 新役員名簿

会 長	清 水 修 一	協和産業(株)代表取締役社長	再任
副 会 長	光 吉 延 博	宮川興業(株)取締役会長	再任
副 会 長	松 村 みち子	タウンクリエイター代表	再任
副 会 長	新 美 政 衛	(株)キクテック代表取締役社長	再任
専務理事	伊 藤 清 志	常勤役員	再任
専務理事	笠 原 孝 志	常勤役員	再任
理 事	片 倉 正 彦	首都大学東京名誉教授	再任
理 事	大久保 堯 夫	日本大学名誉教授	再任
理 事	三 林 洋 介	東京都立産業技術高等専門学校教授	新任
理 事	菰 田 潔	モータージャーナリスト	再任
理 事	納 宏	元国土交通省道路局道路環境課長	再任
理 事	太 田 昭 雄	(一社)日本二輪車普及安全協会常務理事	再任
理 事	飯 田 裕 一	スリーエムジャパン(株)トランスポートেশョンセーフティ事業部長	再任
理 事	伊 藤 勲	大和谷工業(株)代表取締役	新任
理 事	永 澤 弘 夫	(株)永澤興業代表取締役社長	再任
理 事	前 島 敏 雄	信号器材(株)代表取締役社長	再任
理 事	浜 田 一 幸	大泉産業(株)代表取締役会長	再任
理 事	岡 部 裕 樹	岡部企画(株)代表取締役	再任
理 事	加 藤 淳 一	藤安全施設(株)代表取締役	再任
理 事	村 瀬 孝 雄	大共道路設備(株)代表取締役	再任
理 事	住 吉 健	兎島産業(株)代表取締役	再任
理 事	東 久 雄	(株)アトム代表取締役	新任
理 事	藤 原 周太郎	ロードライン(株)代表取締役	新任
監 事	上 田 富 久	ライン企画工業(株)常務取締役	再任
監 事	小 西 竹 丸	ミカドコーポレーション(株)代表取締役会長	新任

## 新顧問名簿

顧 問	佐 藤 信 秋	参議院議員	再任
顧 問	足 立 敏 之	参議院議員	再任
顧 問	池 田 速 雄	元警察庁交通局長	再任
顧 問	矢 代 隆 義	元警視總監	新任
特別顧問	遠 藤 芳 郎	前会長	再任

## 道路標識ハンドブック改訂版を発行

全標協が発行している道路標識ハンドブックは、前回発行以降に関係法令や技術基準等の改正が頻繁に行われてきており、これらを踏まえた見直しを行う必要があったことから、平成29年4月、道路標識ハンドブック改訂委員会を設置し、改訂作業を進めてきました。平成30年6月には道路標識ハンドブックⅢ(2018年度版)を改訂発刊し、近々「道路標識ハンドブックⅠ・Ⅱ(2019年度版)」を発行する運びとなりました。

道路標識ハンドブックは、昭和40年(1965年)に初版を発行して以来11回の改訂を重ね、今回は平成24年(2012年)の改訂以来7年ぶり、12回目の改訂となります。ハンドブックは3分冊で、Ⅰは道路標識の設置、Ⅱは道路標識の設計・製作・施工・維持

管理、Ⅲは関係法令で構成されています。

今回の改訂版は、Ⅰでは標識令の改正を踏まえて、高速道路のナンバリング、案内標識の英語表記、環状交差点の規制、道の駅の案内、一時停止標識等の英語併記、チェーン規制等を新たに追加しています。Ⅱでは国が定めた道路標識の点検・診断に関する項目や、標識柱・標識板検査要領を新規に追加するとともに、鋼構造基準等の改定を盛り込むなど維持管理時代に対応した内容としています。Ⅲでは法令部分を改訂するとともに、業務に必要な関係官庁の新規通達等を掲載しています。

価格は、Ⅰ～Ⅲの3冊で1万8千円(税抜き)ですが、全標協会員には1万5千円(税抜き)の特別価格となっています。

### お知らせ

#### 入会

- (株)秀明 (東北支部)  
代表取締役 北嶌 健作  
〒981-3217 宮城県仙台市泉区実沢字広畑17-6  
Tel.022-725-3127 Fax.725-3128
- 大館桂工業(株) (東北支部)  
代表取締役 中田 直文  
〒017-0044 秋田県大館市御成町3-7-17  
Tel.0186-49-1331 Fax.49-7411
- サンコー安全(株) (中国支部)  
代表取締役 高木 達也  
〒690-0011 島根県松江市東津田町1887-25  
Tel.0852-26-4651 Fax.26-4652
- 東中国ロード工業(株) (中国支部)  
代表取締役 向畑 剛  
〒701-1202 岡山県岡山市北区橋津296  
Tel.086-284-0555 Fax.284-5320

#### 代表者変更

- 北海道ラインファルト(株) (北海道協会)  
代表取締役 秦 浩二→金谷 俊幸
- (株)北海道ロードサービス (北海道協会)  
代表取締役会長 本多 誠司→代表取締役社長 千葉 敬
- (株)秋田デックライト (東北支部)  
代表取締役会長 今 洵→代表取締役社長 今 満
- (株)アークノハラ (関東支部)  
代表取締役 赤川 喜和→岡本 力
- セイトー(株)東京支店 (関東支部)  
→セイトー(株)安全施設事業部 東京営業所  
支店長 白井 義英→安全施設事業部長 片平 訓之
- (株)友邦 (関東支部)  
代表取締役 高野 邦明→矢萱 直人
- (株)メタルテクノ神戸 (中部支部)  
代表取締役 神戸 邦夫→増子 理恵子
- 協和産業(株)静岡支店 (中部支部)  
支店長 水上 修→望月 裕太
- エスジェイシー寿(株) (中部支部)  
代表取締役 西川 清→岡 郁智

- ユウテック(株) (中部支部)  
代表取締役 有城 功徑→有城 和哉
- 関門産業(株) (中国支部)  
代表取締役 松浦 秀子→花元 学

#### 住所等変更

- (株)キクテック北海道 (北海道協会)  
〒002-8021 北海道札幌市北区篠路1条9-1-73  
Tel.011-790-6711 Fax.790-6712
- (株)イクスル (東北支部)  
〒020-0502 岩手県岩手郡雫石町板橋82-7
- 協積産業(株) (東北支部)  
〒020-0121 岩手県盛岡市月が丘3-46-32
- アトムテクノス(株) (関東支部)  
〒336-0932 埼玉県さいたま市緑区大字中尾865-2  
Tel.048-712-7070 Fax.712-7071
- (株)エムケイ (中部支部)  
静岡県浜松市中区高丘北3-1-10

#### お詫びと訂正

2019年5月号(No.338)の「お知らせ」について (株)日交道路 代表取締役 宮本博支さんのお名前を宮本博文、日本ライナー(株)九州営業所の所長を代表取締役と誤って記載しておりました。お詫びして訂正いたします。

#### 広報・教育委員会委員

(トラフィックサポーター編集担当)

委員長 松村みち子

委員	石川 盛昭	宇佐 孝之	大北 良弘
	太田 昭雄	岡根 隆資	小畑 営一
	笠原 孝志	鎌田 洋一	菰田 潔
	大上戸文男	辻野 善久	中谷 一成
	南雲 靖秀	本田 恵式	前田 年輝
	矢野 勝彦	山神 秀憲	(五十音順)
事務局	村上 寿一		